

心温かい人々が暮らす町

無償の教科書に込められた思い

新学期が始まり、小・中学校および義務教育学校でも、児童生徒たち全員に新しい教科書が配られる時期になりました。今では無償で配られている義務教育の教科書ですが、約60年ほど前まではお金を払って購入しなければならなかったことをご存じでしょうか？

平等ではなかった義務教育

無償化以前の教科書は、毎年各家庭で用意する必用がありました。多くの家庭にとって、経済的負担は軽いものではなく、そのため各地で無償化を望む声が上がっていたものの、長い間実現には至っていませんでした。

3月になると、保護者たちは兄姉のおさがりや、知り合いに譲ってもらった古い教科書を用意し、ボロボロで使えないものや足りないものだけを買って揃えたりしていました。しかし、家庭の事情で教科書を準備することができずに学校でつらい思いをする子どもや、学校に通うことができない子どももいました。

権利への目覚めと闘い

1961(昭和36)年、高知県の被差別部落で、義務教育の教科書を無償化するための運動が始まりました。日雇い賃金が300円程度の当時、教科書代は小学校で約700円、中学校で1,200円と高額で、安定した収入の仕事に就けない保護者たちにとっては大きな負担でした。

その地区では、部落差別をなくすための学習会が行われており、その中で保護者たちは「義務教育は、これを無償とする」とした憲法第26条を知りました。

そこで「教科書をタダにする会」が発足し、全ての子どもに平等な学びの権利を求めました。この運動は全国に広がり、国会でも大きな問題として取り上げられました。

そして1963(昭和38)年に「義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律」が制定され、翌年から段階的に国による無償化が始まりました。

1969(昭和44)年には、全ての小・中学校での無償化が実現しました。こうして毎年新しく配られるようになった教科書には、子どもの幸せを願った保護者たちの思いが込められています。

誰もが暮らしやすい社会へ



この「教科書無償化運動」は、豊かな教育の保障をめざしてきた日本の歩みの中でも大きな意味を持つものです。社会の仕組みにおいて、憲法が守られていないことの問題に気付いた人々の努力が国を動かし、効果的に誰もがより暮らしやすい社会を実現することにつながりました。この運動は、教育を受けることができる喜びを改めて私たちに思い起こさせるとともに、個人が持つ人権についての理解を深め、共に支え合い行動することの大切さを教えてくれます。

●人権相談所開設

法務大臣の委嘱を受けた人権擁護委員による人権相談を行っています。いじめ、嫌がらせ、インターネット上での誹謗中傷などでお困りの場合は、お気軽にご相談ください。相談は無料で、秘密は固く守られます。

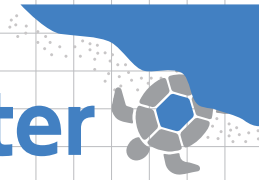
相談場所	時間	令和6年										令和7年		
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
日和佐隣保館	10:00~12:00		14日(火)		9日(火)				12日(火)		14日(火)			
日和佐公民館	10:00~12:00			1日(土)			10日(火)		10日(火)				11日(火)	
由岐公民館	13:00~15:00	9日(火)		1日(土)		6日(火)		8日(火)	10日(火)			4日(火)		

町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。

「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことがまさに、「にぎやかそ」美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。



ウミガメ No.28 News Letter



カメの進化とウミガメへの道

カメは進化の過程で甲羅を獲得した爬虫類です。しかし、この事を突き詰めてみるとカメは実に興味深く、謎の多い存在なのです。これまでのカレッタでは、エントランスから入った最初のフロアで、壁面に生物進化の歴史をデザイン化したレリーフと代表的な古代の生物を解説したパネル、フロア中央に太古の巨大なリクガメの甲羅模型、床にアーケロンという恐竜時代の大きなウミガメのシルエットを描いてカメの進化を解説していました。その他に、淡水性、陸性のカメや甲羅に特徴のある生きたカメを展示、加えてカメの進化についての最新情報を学芸員の手作り展示物で紹介していました。ただ、来館された皆様の注目は生きたカメ達に向けて、進化の展示物は見逃されがちに感じていました。そこでリニューアルでは、カメの進化に関する展示を一新します。最も目を引くのは、カメが進

化してきた道筋を木の枝分かれの様に表現する「系統樹」にして床面から壁面を一体的に使って描きフロア空間全体でカメの進化を解説します。「系統樹」の中には、化石研究から発見されたカメの復元図と解説文を配置しています。また、カメが甲羅を獲得した過程、多の種類の生きたカメが甲羅を獲得した過程、その中からウミガメのグループが進化してゆく過程について、最新の研究成果に基づいて解説する展示となります。生きたカメの展示もそのカメ達が進化してきた道筋に合わせた配置となり、非常に見ごたえのある空間になります。(館長：平手康市)



うみがめについての質問をお送りください。お答えします！
〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐 浦369 うみがめ博物館カレッタ「質問係」



応募フォーム

Question

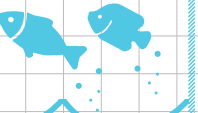
ウミガメは冬眠しますか？

Answer

ウミガメは居心地の良い水温を求めて泳いで移動することが出来るので冬眠する必要がありません。しかし、地中海やカリフォルニア湾の奥など、居心地の良い海域への移動が困難な場所では冬眠に近い状態になるウミガメが居る事が知られています。

みなみの海のいきもの図鑑

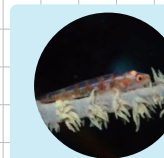
太平洋に面する美波町では多くの生き物たちが生息しています。このコーナーでは実際に撮影してきたリアルな写真と共に様々な生き物たちをご紹介します！



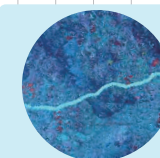
ガラスハゼ

ガラスのように透明な体に6~8本の赤い帯模様があるのが特徴です。全長約3cmで、ムチカラマツにくっついて過ごしていますが、細長いものが好きなのかプイの係留ロープなどにもくっつくこともあります。

他の生物が近付くとムチカラマツから離れることなく、ひょいっと素早く裏へ回ったり上下に移動して逃げます。困みにムチカラマツは直径約1cm、長さ2~3cmの細長いサンゴの仲間で潮通しが良い岩礁に固着しています。表面にポリプがあり、プランクトンを食べて生活しています。ガラスハゼはペアでいることが多く、繁殖期にはムチカラマツのポリプを取り除いてそこに産卵します。(ダイバー：長楽美保)



ひらひらと見えるものがポリプ



細長く伸びているものがムチカラマツ